

「脱炭素について考える高校生ワークショップ」東奥日報に掲載されました!

令和4年9月10日(土)、「青森県から世界・日本のエネルギー・環境問題を考える地元高校生向けワークショップ」が青森市で開催され、本校生徒も参加しました。

第1回ワークショップには、県内6校の高校生より計32名が講義に参加しました。

本校からは2年GSコースより3名が参加し、気候変動の現状や脱炭素社会について学びつつ、講師や高校生と意見交換を行いました。



今後全5回のワークショップに参加し、2050年以降の社会のあるべき姿に向けた提言を
発表します。

東奥日報：2022年9月11日 朝刊掲載

多様なエネルギー関連施設が立地する本県から未来の脱炭素社会を考える高校生向けワークショップが10日、青森市で始まった。県内6校の1、2年生32人が計5回の講義に参加し、気候変動の現状や世界の環境・エネルギー問題を学びつつ、2050年以降の本県、日本のあるべき姿に向けた提言をまとめる。

脱炭素社会どうつくる

青森 高校生ワークショップ

初日は同市の青森商工会議所会館で5人の講演があった。地球環境戦略研究機関と日本貿易振興機構(JETRO)の講師は、気候変動対策や、世界各地で進むカーボンニュートラルの取り組みを説明。民間の企業、研究所からは、水素活用、環境負荷ゼロを旨とした会社づくりなど、最先端の技術や研究開発の紹介があった。

三本木高2年の桜井匠さん(17)は「学校の活動で水素発電や核融合などを調べて興味を持った。ウェブでは学べない、自分が知らない世界の話をもっと報道し

たい」、むつ工業高2年の工藤遙乃さん(16)は「温室効果ガスの削減は簡単ではないけれど、私たちが考えて取り組んでいかなければと思った」と話した。

(加藤景子)

講師と共に意見交換する高校生ら

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです